

歌会始

宇田道隆

出沢さんが来られて本年一月十四日歌会始の儀に召人として参内した所感の記を求められました。昨年十二月宮内庁から急にその御沙汰を拜したときは全く思いもかけない光栄にまごつきました。今年のお題が「海」で、特に陛下からお名指しで、歌を作つて見せてくれなにかとの御思召による召人存のです。私は急に緊張して歌作りにかかりました。一週間ぐらいの間に印刷局へ廻る歌稿ができました。奉書紙に清書して差し出したのは一月上旬でした。

一月十四日の当日の朝は雲一つない快晴の清々しい明るさでした。宮中からの差廻しのお迎へ車で参内して控えの間に導かれました。安田画伯の襖に万葉の歌や扇形の四季の花の描かれた室でお茶を頂きました。選者の木俣修二、太田兵三郎

佐藤佐太郎・山本友一・香川健の者先生もそろいました。十時十五分正殿松の間に入ります。召人が先頭をのには恐縮でした。十時半両陛下のお出ましを一同起立してお迎へしました。

やがて講頌が始まりました。約一時間TV放映の通り、古式に則り、まことにおごそかな、清らかな雰囲気。朗々と、読師・講師・発声・講頌の合唱が響き渡ります。預選者十名の次が私の歌の番でした。東京都 宇田ノ道隆の音に立つて、陛下に一礼しますと読師の音が起り、コーラスが続きます。

金華山沖にけるけき潮すぢを
いふが群れ飛ぶ夕焼の海

唱和が終つて一礼し着席。次に皇族・皇太子妃・皇太子・白皇后、御製の講頌がおごそかに一同起立の中になされました。天皇、皇后御退出。各員退出。大きな彩壺の

見ました。

置かれた隣室で拜謁。天皇陛下が歩み寄られてまことに優渥をお言葉と召人に特に賜けりました。私にとつてはまことに大きな感激でした。皇后陛下からも声をかけて頂きました。このあと又控室で一休みした後、賜物があり、別室で賜饌を頂きました。佐藤佐太郎先生、湯川式部長官（歌合始委員長）が私の両隣の席でした。御酒も出て、まことに和やかな雑談の花が咲きました。私もやっと緊張がほぐれました。午前一時退席。記帳を終へて、御送り車で自宅に帰り、無事大役を終へて全くホッとしました。当日感慨一首を左に記しました。

半世紀がかかりて来し海の歌
召されてみ前に朗唱する今

(以上)